

台風 11 号に伴う赤谷及び栗平河道閉塞被災状況 所見

【赤谷地区】

○今回の被災メカニズム

- ・ H23.9 崩壊時の崩壊残土（左岸不安定土砂）の崩落と、仮排水路の流失及び縦侵食の拡大を確認。
- ・ 天然ダム形成後の最大となる降雨（330mm）により、不安定土砂の崩落とある程度の縦侵食が生じたと推察される。
- ・ ただし、平成 26 年 7 月末時点で本堤部が完成していた基幹堰堤が効果を発揮し、縦侵食の進行を軽減したものと考えられる。
- ・ なお、平成 23 年 9 月の深層崩壊斜面においては、新たな拡大崩壊やガリー侵食、目立った湧水は確認されなかった。

○下流域への被害の危険性について

- ・ 直ちに下流部に被害が及ぶ危険性は小さいと考えられる。
理由 ①平成 23 年 9 月の深層崩壊斜面に新たな拡大崩壊は認められない
②基幹堰堤により、今後大幅な侵食が進む危険性は少ない
ただし、台風の接近等の大雨が予想される場合は、十分な警戒が必要である。

○今後の対策について

- ・ 水位の観測、CCTV による状況監視は警戒・避難体制上重要となることから、早期の復旧を行うとともに、地元自治体や住民と監視体制について十分情報共有を図ることが重要。
- ・ 基幹堰堤の効果は大きいと考えられることから、速やかな復旧及び残工事の完成を見込む必要がある。

【栗平地区】

○今回の被災メカニズム

- ・ 仮排水路及び暗渠管の流失、縦横侵食の発生を確認。
- ・ 仮排水路を流下した流水により河道閉塞部の末端から侵食が進み、上流端に到達した段階で急速に縦横侵食が進んだと推察される。
- ・ なお、崩壊斜面については、空中からの調査においても、新たな拡大崩壊やガリー侵食、目立った湧水は確認されなかった。

○下流域への被害の危険性について

- ・ 直ちに下流部に被害が及ぶ危険性は小さい。
理由 縦侵食が進んだことによって、流路の勾配が侵食前に比べ小さくなった
ただし、台風の接近等の大雨が予想される場合は、十分な警戒が必要。

○今後の対策について

- ・ 水位の観測、CCTV による状況監視は警戒・避難体制上重要となることから、早期の復旧を行うとともに、地元自治体や住民と監視体制について十分情報共有を図ることが重要。
- ・ 速やかな基幹堰堤工事への着手が必要。
- ・ 流木の発生源や、河道閉塞部の直下流部へ堆積した土砂の再移動について、監視が必要。
- ・ 暗渠管による排水等の対策工の効果によって、河道閉塞土砂の侵食量及び湛水池からの流出量が低減されたものと考えられるが、詳細については今後検証が必要。

* なお、今回の所見は、ヘリコプターからの目視に基づく調査の結果であり、被災メカニズムに関しては、今後の詳細な調査の進展により、内容に変更が生じる可能性がある。

国土技術政策総合研究所土砂災害研究室長 國友 優
土木研究所土砂管理研究グループ主任研究員 木下 篤彦